印西市立西の原中学校

学校だより

発行　令和８年１月８日　No. ９

〒270-1334
印西市西の原一丁目３番地
TEL　0476-45-0160
FAX　0476-45-0161
特別支援相談窓口・コーディネーター
（教頭・谷・関口）
セクハラ相談窓口
（仲子・鈴木美・糸川・森元・教頭）

【学校教育目標】
自ら考え、心豊かにたくましく生きる若者の育成
～常識と良識をもった生徒～

油断

印西市立西の原中学校
校　長　臼井　昌章

２０２６年がスタートしました。今年をよい年にしよう、今年はさらにがんばろうと考えているみなさんに、京都府と滋賀県の境にある比叡山延暦寺の話を紹介します。

比叡山には開祖最澄が延暦寺を開いた７８８年、今から１２００年以上前から大切に守られている宝があります。それは、最澄が修行で使っていた炎の灯火で、現在までその火を消さずに守り通しているという歴史です。

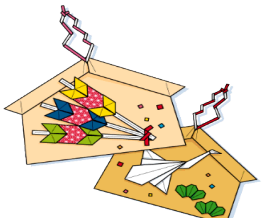
比叡山は何度も災害に遭いました。１５７１年には織田信長の焼き討ちに遭いました。こうした苦難の中でも守り通された灯火が、延暦寺の根本中堂にあるのです。灯火を守るため、菜種油がきれないように継ぎ足し継ぎ足し、炎の芯が燃え尽きそうになると新しい芯に代える･･･そういった営みを１０００年以上も続けてきているのです。そんな火が世界中のどこにあるでしょうか。まさに日本の宝です。

灯火はどうやって守り続けられたのでしょうか？灯火の係とか、組織の中で役割がしっかり分担されていたのでしょうか？という疑問に対し、延暦寺の高僧は次のように答えました。

「係や役割を決めたら、何年かはうまくできるかもしれません。しかし、役割を決めた瞬間に『誰かの仕事だ』というような甘えの心が出て、他人事になってしまいます。そこに失敗の原因が隠されているのです。比叡山では誰も役割を持ってはいません。気づいた人が油を足す、気づいた人が芯を代える。これを何百年もの間、何世代もの僧たちが一人残らず行ってきたのです。もし途中で誰か一人でも怠けていたら、火は途絶えていたことでしょう。この灯火は最澄の時代から続く、われわれが命をかけて守らなければならないものです。役割や係分担で行うものではないのです。油が切れたら灯火は消えてしまいます。心に迷いや怠慢が満ち、当たり前のことができない･･･これを『油断』というのです。この言葉は、比叡山の灯火を守ることから生まれた言葉なのです」･･･と。

私はこの話から、当たり前のことを行い続けることの大切さと難しさ、そして、心を鍛えることの意義を学びました。本校の合い言葉「常識と良識」を持った生徒の一人として、みなさんにはぜひ、当たり前の行動が当たり前にできる、当たり前の行動を続けることのできる社会人になってほしいと思います。

楽をして自分を甘やかしたり、誰か人のせいにしたりなどの「油断」をせず、一歩一歩着実に自分の目標に向かって進んでいきましょうね。今年を最高の年にしましょう！

【１月の主な行事】

7日	水	始業式 避難訓練
8日	木	全校評議会 給食開始
9日	金	安全点検日 予餞会実行委員会 学校生活アンケート（朝読）
12日	月	成人の日
13日	火	公立高インターネット出願開始 委員会会議（帰会10分延長）
14日	水	専門委員会 学校環境検査・薬剤師来校
15日	木	委員会報告（帰会10分延長） 栄養指導（2年）
17日	土	県内私立高入試開始
18日	日	正装採寸（新1年）
20日	火	教育相談アンケート（朝読）
21日	水	学級優先日 進路検討会議
22日	木	小中交流会
24日	土	全国学校給食週間（～1/30）
26日	月	職員会議・一斉下校 保護教校外委員パトロール
27日	火	教育相談（1・2年） 栄養指導（2年）
28日	水	全校評議会 調査書作成委員会
29日	木	教育相談（1・2年） 栄養指導（2年）
30日	金	教育相談（1・2年）